

臨地実習

| 科目 | 科目目標 | 内容 |
|-------------------|---|--|
| 看護の基礎 実習 I | <ul style="list-style-type: none"> ・対象と人間関係を築くことができる ・対象の気持ちを考え、自分の言動を振り返ることができる。 ・対象の療養環境を観察し「生活の場」として理解できる ・対象の身体的健康状態を観察し、評価できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・プロセスレコード ・対象の生活（療養環境）の理解 ・療養環境を整える ・バイタルサイン測定 |
| 看護の基礎 実習 II | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキルやフィジカルアセスメントを活用し対象を理解できる。 ・対象の思いを感じとり、必要な生活援助を根拠に基づいて実施できる。 ・実践を通して対象の状態をとらえ、アセスメントできる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・バイタルサイン測定 ・フィジカルアセスメント ・日常生活援助（生活環境の整備・清潔・更衣・排泄） |
| 地域の実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象である人々の暮らしを、地域がどのように継続的に支援しているかを理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの役割の理解 ・市町村保健センターの役割の理解 ・地域における保健医療福祉チームの連携の理解 |
| 地域・在宅 看護論実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・病気や障害をもっても、地域の中で暮らすための支援の実際を理解できる。 ・地域包括ケアシステムにおける看護の多様性と継続性を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント ・介入時期と看護の継続性 ・くらしの場で行われる治療と看護、社会資源の活用 ・保健医療福祉チームにおける看護師の役割 |
| 成人・老年 看護学実習 I | <ul style="list-style-type: none"> ・成人・老年期にあり健康維持が困難となった対象の身体的苦痛や精神面・社会面を理解できる。 ・成人・老年期にある対象へ、根拠に基づいた日常生活援助ができる。 ・その人らしく過ごせるよう、日常生活の自立・自律に向けての支援を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康維持および日常生活行動が困難となった対象のアセスメント ・対象の状態に合わせた日常生活援助 ・チーム医療における多職種連携カンファレンスへの参加 ・社会資源の活用の理解 |
| 成人・老年 看護学実習 II | <ul style="list-style-type: none"> ・成人・老年期にある対象の病態生理や治療、検査およびその影響について理解できる。 ・成人・老年期にある対象の生き方や生活に影響を与える因子を理解できる。 ・対象とその家族が、その人らしく生活するための看護過程を考え実践できる。 ・生きることや暮らしを支える保健・医療・福祉の連携を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の経過や回復過程の理解 ・健康維持回復や生活機能の向上をめざした看護過程の展開（情報収集・アセスメント・看護計画の立案・実施・評価・修正） ・対象および家族が健康問題に取り組む過程の支援 ・持てる力をひき出す関わり ・地域医療連携に携わる専門職または MSW、保健・医療・福祉の連携の実際を見学 |

| 科目 | 科目目標 | 内容 |
|----------------|--|--|
| 手術を受ける対象を支える実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・手術による生体侵襲により、生命活動や日常生活行動がおびやかされた状態にある対象を理解できる。 ・対象の回復を促進する援助を一部実施できる。 ・外来で治療を継続する対象を理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生命活動が脅かされた状態にある対象とその家族の理解 ・周術期の看護（手術見学） ・疼痛緩和の援助 ・術後合併症予防の援助（早期離床の援助） ・二次障害の予防の援助 ・回復に応じた日常生活援助 ・受診時から入院、退院後の外来通院時の継続看護の理解 |
| 障害のある対象を支える実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害者のもてる力や強みを理解できる。 ・障害の程度にかかわらず、対象が可能な限り自立し生活を営むことを支援できる。 ・対象のQOLについて考えを深めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象の理解（言語・非言語的コミュニケーション） ・対象に合わせたバイタルサイン測定 ・対象に合わせた日常生活援助 ・QOLを考慮した療育の見学 ・多職種連携・社会資源の活用 |
| 小児看護学実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特徴と成長発達を理解し、健康状態や発達段階に応じた援助ができる。 ・成長発達を支え、その子らしさとその家族らしさが発揮できるような看護を実践できる。 ・子どもを家族の中の存在として位置づけ、子どもと家族が主体となる看護を実践できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育園見学実習 （成長・発達の理解、遊びの意義・目的の理解、発達段階に応じたコミュニケーション基本的生活習慣の獲得の理解） ・病棟実習 （コミュニケーション・バイタルサイン測定） ・対象の健康障害と成長発達・日常生活援助関連する社会資源について知る・小児と家族の相互関係を理解した関わり） ・外来見学（継続看護の実際を知る） |
| 母性看護学実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・分娩・産褥期にある母性および新生児の特徴を理解することができる。 ・対象とその家族がより健やかに円滑に生活することを支援する看護が実践できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の看護（外来見学） ・分娩期の看護（分娩見学） ・産褥期の看護 保健指導見学（母児同室・授乳・退院・沐浴） ・新生児期の看護 ・多職種連携・社会資源の活用 |
| 精神看護学実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神に障害を持つ対象を理解し、対象をありのままに受け止められる。 ・精神の健康を回復するための看護を理解することができる。 ・精神に障害があっても、その人らしく地域で暮らす対象への支援を理解できる。 ・対象との関わりを通して、自己を見つめ、自分を知ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・対象の理解（プロセスレコードの作成） ・日常生活の援助 ・デイケア・訪問看護の見学 ・多職種連携・社会資源の活用 ・精神療法、作業療法、生活技能訓練、服薬教室の見学 |
| 看護の統合と実践実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・既存の知識・技術・態度を統合し、臨床判断を用いて看護が実践できる。 ・看護管理の実際を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・複数患者の受け持ち（パートナーシップ） ・看護管理の理解（医療安全・看護師長、コーディネーターの役割） |